

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 シルバーホームおおの郷

ユニット名 ほのぼの

自己評価実施年月日 平成 20年 2月 15日

記録者氏名 大崎 千重

記録年月日 平成 20年 2月 15日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、認知高齢者であっても保たれているプライドを大切に考え、利用者の心に目を向けて心が傷つかないように温かい態度や言葉かけで接しいつまでも地域の一員として暮らし続けるよう支援できる理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や食堂に理念を掲げている。職員の採用時には必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。職員全員が共通の理念を共有し日々のケアも理念に沿ったケアができていくか申し送りやスタッフ会の時に振り返り確認し合うようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入居時に理念について説明をおこなっている。施設の行事や家族会、運営推進会議などを通して事業所の取り組みや理念を理解していただけるように意見交換をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣への散歩を日常的に行っており、挨拶や言葉を交わしています。お正月にお花を生けに来て下さったり、野菜を頂いたりと交流に努めています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所の農家からお米を購入したり、駐車場を借りたりしています。一斉清掃に地域の一員として参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への積極的な貢献はできていないが、地域支援センター等の主催する会や研修への参加し情報収集と情報提供をしている。	○	地域密着型のサービスとして、在宅で認知高齢者を介護している家族への応援ができるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的をスタッフに伝え全員で現状のケアの見直しや再確認を行いながら取り組みました。前回に指摘を受けた点は、改善シートを利用し改善に取り組みました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を実施している。グループホームの日々に生活を紹介し検討事項や取り組んでいる内容について率直な意見を聴いている。会議後は議事録を全員に送付しており、施設内にも閲覧できるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域支援センター、福祉事務所など関係担当者には、相談や助言・指導を受け入れるようにしている。市の介護相談員の受け入れもしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修を受講しており、地域権利擁護事業を利用している入居者が2名おり随時職員に説明し、アドバイスを行いながら入居者をサポートするよう努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や一部スタッフも虐待防止の研修を受講しており、他の職員への伝達や勉強会を行い高齢者虐待が日々のケアで見過ごされていないか検討し防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項、医療連携体制などの説明を契約書に沿って説明を行い、納得していただいた上での契約としている。疑問点などが生じた時はいつでも説明に応じている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面接時にご本人の思いを聴いていただき、気になることがあれば知らせていただけるようお願いしている。ご家族の気のついたこと思ったことも言ってもらえるようコミュニケーションをとれるよう努力している。介護相談員にも入ってもらい相談にのっていただいている。玄関に意見箱も設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時に、お預かりしている金銭の出納帳のコピーを領収書、ホーム便り、利用者の近況報告を担当のスタッフがお知らせしている。体調に変化あった場合はその都度電話連絡している。又家族が面会においでた時は、その都度近況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を行い、気軽に意見交換ができる雰囲気づくりに留意している。契約時に公的窓口の説明をしている。意見箱を設置し苦情や相談内容は、ただちにスタッフと情報の共有や解決に向けた話し合いをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のスタッフ会を行い、業務上の疑問や問題を話し合い改善策を考えている。業務上の悩みなども広く聞き円滑に業務が行われるように意見交換をしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基準に基づいた勤務体制がとれている。食事、入浴、就寝時にはゆとりを持って対応できるようにしている。職員の急な休みや急変時の入居者の受診など全職員で協力して円滑に行えるよう調整している。夜勤は1ユニット1名でおこなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が維持できるように極力移動は避けている。異動や離職がやむえない場合は、時期や引き継ぎに最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市の主催する研修や関連事業所での勉強会への参加など、知識、技術の習得、質の向上のため参加を推進している。又研修報告書の提出、他の職員への伝達などおこなっている。	○	定期的に施設内で独自の勉強会をしていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議での分科会、管理者連絡会などで交流を持ちサービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	関連事業所内での親睦会は、四季折々にあり参加している。スタッフの業務上の悩みや人間関係の把握等は主任に相談している。スタッフの要望を汲みながらストレスが生じないような職場作りを目指している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も時折訪問し、利用者、職員ともに声かけし施設の状況の把握を行なっている。人事考課や自己評価も行い、スタッフが向上心を持って働けるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居するまでに、自宅や病院、施設を訪問して面接を行い、心身の状況の把握や本人の思いを聞き馴染みの関係が早く構築できるように努力している。知り得た情報はスタッフと共有し受入れの態勢を整えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問や面接を行い、ご家族の困っていること、不安に思っていることなどよく聴き、施設としてどのような対応ができるのか話し合っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご家族とよく話し合い状況を確認し、緊急に対応しなければならない場合など出来る限りの対応をしている。包括支援センターや他事業所への相談、協力をお願いしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の入居者様は病院からそのまま入居というケースがおおく、入居前にご本人の生活歴や心身の状況をできるだけ多くの情報から把握し、スタッフ一同が情報を共有し統一したケアを行うことに努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で喜怒哀楽を共にしながら、年長者である利用者様から、色々と教わることも多く感謝やねぎらいの言葉もかけてくださるのでスタッフもストレスをあまりためることなく業務ができている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りには担当のスタッフが様子を書いて送っている。面会時には近況報告を行い、家族の想いや不安に耳を傾けるように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族、御本人の思いや状況を見極めながら、面会や外出、外泊のお願いや家族会や夕涼み会などの行事にお誘いし一緒に過ごせる時間が持てるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問で馴染みの方と触れ合ったり、行きつけの店に同行している。友人に会いに来てもらうよう声かけしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の中でも馴染みの関係ができています。その時の心身の状態で感情が大きく変化することがあるので入居者同士の関係がうまくいくようスタッフが調整役になり関わり見守っている。一人で過ごす時間も大切にしながら孤立していないか見守っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	気軽にホームに訪問していただけるよう声をかけ、近況を聞かせていただいたり必要に応じて相談に応じられるよう心がけている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話の内容や表情、態度から出来る限り本人の意向を把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人から直接話を伺ったり、御家族や担当のケアマネージャーに生活歴などの聞き取りを行い、把握に努めている。日々のコミュニケーションを通じて把握できることもありスタッフ間で情報の交換をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを把握し、心身の変化をむ逃さないように心がけている。出来ることに着眼しそれが実行できるように支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含めスタッフ全員でカンファレンスを行い、入居者が自分らしく暮らすことができるように要望を聞き介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りや、心身状況の変化を把握し、計画の見直しを図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	戸別ファイルを用意し、食事、排せつ、服薬、身体状況や日々の暮らしぶり等を記録している。スタッフが情報を共有するために連絡帳を活用し全員が確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援など行い、御本人、御家族が安心して生活ができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアなど地域の社会資源に依頼、協力し合い地域での生活が出来るよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性は感じるが、事業所内の対応に留まっている。	○	同列事業所に協力を要請してはしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターとはいつでも相談や情報交換、協力が得られるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期における細やかな対応に対する基準ができておらず、対応するスタッフの知識の向上やケア方法の確立を行なっていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のこれまでの生活環境、支援の内容、注意事項などこまやかな情報提供を行うことで環境の変化によるダメージを防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時や、接遇の研修会参加、スタッフ会の折に気になった対応や困った事など話し合い、入居社の尊厳やプライバシーの保護についての意識向上に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の入居者に合わせて声かけを行い、本人の思いを汲み取り事ができるように努力している。些細な事でも本人が決定できるように声かけしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の状態や希望を尊重しながら柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で選べない方には声かけし、好きな柄や色、季節に合った服装ができるように支援している。理容はご家族がご本人が希望される店に行かれる方もいれば、訪問の理美容を2ヶ月に1階利用されている方もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に準備や食事、後片付けなど行っている。入居者一人一人が何らかの形で参加できるように関わりコミュニケーションを多く取れるひとときとなっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌にビールを希望される入居者様には、お小遣いから購入し夕食時に楽しまれている。おやつは食べたい物を聞いたり、珍しい物、昔懐かしい物を提供するようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄サインを見逃さずに声かけ、トイレ誘導を行い昼間はトイレで排泄するように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を確認し、希望者は毎日でも入浴していただいている。体調や状況、タイミングを合わせ気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣や興味に合わせて活動できるように支援している。出来るだけ日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。夜間寝付けないときは、フロアーにて過ごしてもらったり、不安を解消できるように声かけしたり寄り添って安心して眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や現状の力を把握した上で、負担と感じないように楽しみながらできる家事をお願いしたり、散歩や外出支援をおこない気晴らしが出来るように支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所がお小遣いを管理しているが、外出時や、何か購入したいと希望された時はいつでもの利用できるようにしている。ご自分で小額ではあるが管理されている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、ドライブ、買い物などに出かけ気分転換が図れるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに花見やドライブに行っている。御家族が連れていける方は、御家族にお願いして外出してもらっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもの電話がかけられるようにしている。手紙や年賀状などを出す希望があればその都度対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問してくださった方には、お茶を出したり、時には一緒に食事を取っていただくなどゆっくりしていただけるよう心がけている。居室でゆっくり話したい方はそっとしたり、フロアにて他の入居者と賑やかに話される方には、一緒に話しの輪に入り楽しい時間が持てるように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加スタッフの伝達講習、何が拘束なのか、具体的に確認し、拘束を行わないためにはどうすればよいか話しあっている。どうしても拘束が必要な場合は、カンファレンス行い御本人、御家族に説明、同意を得てか行い、見直し随時行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	事故発生時、緊急時に慌てずに、的確な判断が出来るように、研修、訓練を定期的に行って行きたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日常生活でおこりうるリスクを把握し、家族、スタッフと話し合い情報を共有しリスクの回避が出来るように心がけている。必要に応じて介護計画に立案し、状況にあったケアや見守りが出来るように話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、排便チェックなど誰が見ても解り易いようにつけている。スタッフ全員が情報を共有できるようにしている。普段と違う変化の気付きがあれば、他のスタッフにも意見を求め管理者や連携医院に状態を連絡し医師から指示を受けるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルに入れておりスタッフが効果や副作用などを把握できるようにしている。往診や受診で変更があれば記録し全スタッフが把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立に繊維質の多い食材を使用したり、適度な運動、水分摂取が出来るよう心がけて支援している。排便チェックも行っており便秘が続いてきたら早い目に訪問看護に相談し自然な排便がトイレで出来るように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と毎食後は口腔ケアを徹底して行っている。個々の能力に応じて声かけ、見守り介助を行い口腔内の状態の把握と清潔保持に努めている。又、食事前には口腔体操を行い嚥下がスムーズに行えるように支援している。施設内に歯科衛生士が在籍しており専門的な意見も得る事が出来る。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連事業所内に管理栄養士が在籍しており、献立や栄養指導を受けバランスのよい食事が提供できるように献立を作成し調理を行っている。食事や水分摂取量を記録し情報の共有に努め1日を通じて必要な食事、水分が摂取できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルを基に、手洗い、消毒を励行し感染症の防止に努めている。入居者及びスタッフ全員がインフルエンザ予防接種を受けている。又ノロウイルス等の感染症の情報があれば早めの予防対策をとるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機の使用、食器、まな板や布巾は漂白剤での消毒を定期的に行っている。食材は3日で使い切るようにし、冷蔵庫はその都度掃除をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように、玄関に花のプランターをおいている。駐車場への入り口にはベントを置き誰でも気軽に休めるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や飾りつけをし、季節のうつろいが感じられるような空間作りをしている。心地よい音楽を流したり一人一人がリラックスできるような心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に一人がけの椅子を置いたり、玄関やテラスにベンチを置いて利用者が思い思いに過ごせるような空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にグループホームの意義、目的を説明し出来るだけ使い慣れた家具や馴染みの物を持参してもらおうようお話ししている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の窓の開閉、換気扇の活用で換気を行っている。エアコンの温度調整や加湿など、状況に応じた調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなど要所に手すりが設置しており、安全で自立した生活が継続できるような環境作りに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗があれば、その都度、スタッフで話しあい、原因と解決策を心理、環境両面から考察し不安材料を取り除く努力をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチを置き、木や花を植えて季節を楽しむようにしている。玄関先にはベンチを置き外の景色を楽しんでもらえるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、静かな環境の中で、入居者とスタッフが共に支えあい、楽しみながら生活できるように努めている。2、専門家や専用の器具はないが、あるものを使いリハビリ訓練、歩行練習をしてもらっている。両脇を抱えたり、手を差し伸べスキミングを図る事で信頼関係を築き安心して生活ができるように支援している。3、医療連携で24時間受診や訪問看護、相談が受けられる体制であり、入居者の体調管理や、異常の早期発見・治療が出来るよう努めている。